

令和8(2026)年3月

東日本大震災から15年

岩手県大槌町との絆

被災地から学ぶウェブ防災パネル展





～ 平野大槌町長よりメッセージ①～



東日本大震災津波から15年が経過しました。この節目にあたり、富田林市民の皆様にご心から感謝申し上げます。

震災直後、富田林市からの物資や給水、職員派遣など、数多くの支援をいただき、大槌町にとってその支えがどれほど大きな力となったか、言葉では表しきれません。

昨年8月の「鎮魂の森あえーる」の完成式典には、吉村市長にもご参加いただき、震災の記憶を未来に繋げる大切な施設の完成に立ち会っていただいたことに深く感謝しています。

ハード面での復興は一段落しましたが、引き続き心の復興や地域コミュニティの強化に注力していきます。富田林市との「連携協力に関する基本協定」に基づき、防災や教育、産業振興などで協力を深めていきます。



～ 平野大槌町長よりメッセージ②～



また、JA大阪南様のご協力による「奇跡の復興米」の栽培を通じて、富田林市の小学生にも震災の記憶がしっかりと伝えられています。このお米は大槌町の学校給食にも届けられ、子どもたちに復興の物語を継承しています。

今後とも、富田林市の皆様と共に歩いていけることを心強く感じており、両市町の更なる発展を目指して共に努力していきます。

令和8(2026)年3月 大槌町長 平野 公三



～ 吉村富田林市長よりメッセージ①～



NEW

私たちは決して忘れない あの日 あの時を

～未来の命を守ると誓った東日本大震災から15年～

未曾有の地震とそれに伴う津波で、2万人を超える死者および行方不明者が発生した東日本大震災から15年になります。15年という歳月は、大槌町の皆さまが、どれほどの苦難を乗り越え、力強く復興の道を歩いてこられたかを物語っています。そのたゆまぬ努力に深く敬意を表します。

東日本大震災の発災以降、本市は、岩手県大槌町をカウンターパートとして、義援金の受付、職員派遣、支援物資の提供など、市としての支援を行うと同時に、それらをきっかけとした消防団同士の交流や、JA大阪南や市内ボランティアが中心となり2014年より始めた「奇跡の復興米」栽培を通じた住民交流など、相互に紡いできた「絆」を大切にしていまいりました。



～ 吉村富田林市長よりメッセージ②～



NEW

また、令和2年11月に、岩手県大槌町との「連携協力に関する基本協定」を締結し、大槌町と富田林市が、苦しい時には支え合い、励まし合い、うれしい時には共に喜びながら歩むことのできる、新たなパートナーシップをスタートさせ、それぞれの地域の発展と住民の暮らしの向上に取り組んでいます。

昨年8月、岩手県大槌町に東日本大震災の追悼施設「あえーる」が完成し、私も完成記念式典に出席いたしました。「あえーる」という愛称には、はるかかなたへ逝ってしまった人や、故郷を離れて暮らす人々が「会える」場所、また町の未来へ「エール」を送る場所、という意味が込められています。

震災が与えた様々な影響による人の復興、心の復興はこれからも続いています。これからも私たち富田林市は、皆が心をつなげて被災した地域や人々に、末永く寄り添ってまいりたいと思います。



～ 吉村富田林市長よりメッセージ③～



私たちの地域社会は、少子高齢化や人口減少が進み、人と人、人と地域のつながりが希薄化し、孤独や孤立といった課題が深刻になっていると言われています。けれども、災害は、常に私たちと隣り合わせにあります。そのことを心に留め、地域の「顔の見える関係」や「居場所」「支え合い」等の大切さを改めて見つめ直し、助け合いと支え合いのまちづくりを進めていかなければなりません。

今回、「～岩手県大槌町との絆～被災地から学ぶウェブ防災パネル展」をご覧になられた皆さまが、大震災を自分事として捉え、災害への備えや避難行動等、改めて防災・減災を考えていただける機会となれば幸いです。

令和8(2026)年3月 富田林市長 吉村 善美

～ 東日本大震災の概要 ～

| | |
|----------|---|
| 発生日時 | 平成23年3月11日14:46 |
| 規模 | マグニチュード9.0 |
| 津波 | 各地で大津波を観測 (最大波 相馬9.3m以上, 宮古8.5m以上, 石巻市鮎川8.6m以上) |
| 被害の特徴 | 大津波により、沿岸部で甚大な被害、多数の地区が壊滅。 |
| 死者行方不明者 | 死者 19,782名 (震災関連死を含む) (岩手:5,147名、宮城:10,571名、福島3,948名) 行方不明者 2,550名 (岩手:1,107名、宮城:1,215名、福島:224名) |
| 住家被害(全壊) | 122,053棟 (岩手:19,508棟、宮城:83,005棟、福島:15,483棟) |

復興庁「復興の現状と今後の取組」(令和7年9月)より

～ 岩手県大槌町の被害の概要 ～

| | |
|------------|----------------------------|
| 最大震度 | 推定5程度（大槌町役場の震度計は津波で被災） |
| 人的被害 | 1,286名（死者、行方不明者、震災関連死等を含む） |
| 被害棟数（全壊） | 3,579棟 |
| 被害棟数（半壊） | 588棟 |
| 被害棟数（一部損壊） | 208棟 |

岩手県大槌町ウェブサイト・東日本大震災記録誌「生きる証」資料編より

「大槌震災アーカイブシステム～つむぎ～」

東日本大震災により失われた大槌町の暮らしや文化、町民の思いを留めると共に、復興に立ち向かう姿や、震災により得た教訓を後世に継承し、災害に備えるために、写真や動画、資料などの永続的な保存と活用を実現することを目的として、町における東日本大震災の被災状況や、復興の過程を記録した写真、文書、新聞記事といった資料約14,000点をデータベース化（平成29年8月8日公開）

<https://archive.town.otsuchi.iwate.jp/>



～岩手県大槌町東日本大震災記録誌「生きる証」～

東日本大震災津波の教訓と反省を後世に継承し、災害による犠牲者を二度と出してはならないという思いから、令和元年7月刊行。

「忘れない」

事実を受け止め明日へ歩むため、津波で亡くなった方々を思い供養し、心の復興を果たすとともに、津波の悲劇を忘れない、困難に直面しながらも歩みを進めてきた姿を忘れない、そして多くの人に支えられ復興を進めていることへの感謝を忘れない

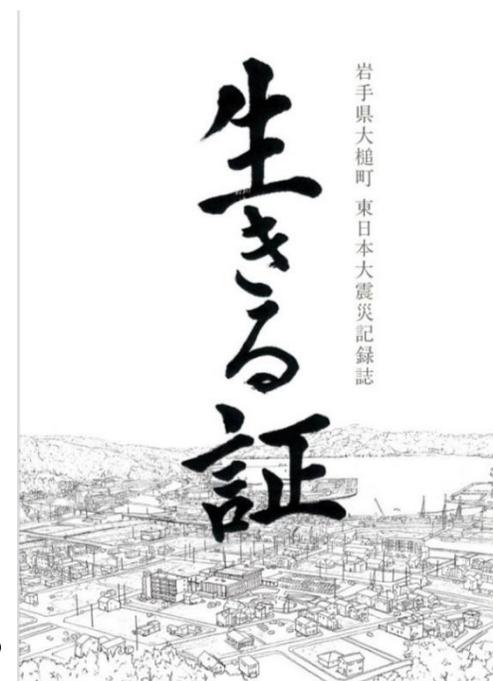
「伝える」

二度と悲劇を繰り返さないため、近年加速的に発達した技術も活用し、もの、記録、写真や映像等、あるいはそれらの複合的な方法で伝える

「備える」

防災の知恵や知識を身に付け、地域や自らが津波の教訓を活かし、いずれまた起こる震災に備える

<https://www.town.otsuchi.iwate.jp/gyosei/docs/433179.html>



～ 発災時の様子①～



砂煙とともに波が町を飲み込んでいく様子

撮影日：平成23年3月11日

撮影者：大槌町



末広町・新町方面

瓦礫で埋め尽くされている様子

撮影日：平成23年3月11日

撮影者：大槌町

～ 発災時の様子② ～



自衛隊ヘリコプターによる救出活動の様子

撮影日：平成23年3月12日

撮影者：大槌町



大槌町赤浜の民宿に観光船「はまゆり」
がのりあげている様子

撮影日：平成23年3月16日

撮影者：富田林市消防本部

～ 発災時の様子③ ～



瓦礫の中で搜索活動をしている
消防隊員の様子
撮影日：平成23年3月15日
撮影者：堺市消防局



被災した旧大槌町役場庁舎と散乱
している瓦礫の様子
撮影日：平成23年3月16日
撮影者：堺市消防局

～ 発災時の様子④ ～



火災にあった旧大槌小学校と周辺
の焼け焦げた瓦礫の様子
撮影日：平成23年3月14日
撮影者：堺市消防局



辺り一面の瓦礫の中の消防車両と
捜索活動をしている消防隊員の様子
撮影日：平成23年3月17日
撮影者：堺市消防局

～ 支援の様子①～



富田林市からの支援物資
撮影日:平成23年4月7日
撮影者:富田林市

～ 支援の様子② ～



富田林市からの支援物資
撮影日：平成23年4月2日
撮影者：富田林市



富田林市からの支援物資
撮影日：平成23年4月11日
撮影者：富田林市

～ 支援の様子③ ～

本市からの職員派遣

本市消防本部は、平成23年3月11日に消防タンク車(1隊4人)・救急車(1隊3人)が、大阪府部隊として出動し、13日から大槌町(岩手県)で活動。また、13日に本市消防本部の7人が、柏羽藤消防本部、大阪狭山市、松原市と合同で第2陣(交代要員)として出発。大阪府部隊が平成23年3月18日20時に解散し、富田林市消防隊員(7人)及びタンク車、救急車が20日に帰署しました。

本市職員が平成23年3月30日から5月29日まで被災地での給水活動をおこないました。

被災者の健康相談などの派遣要請に対応し、平成23年5月2日から6日まで、岩手県山田町(宮古保健所管内)の避難所で、健康相談活動をおこなうため、保健師1人を派遣しました。平成23年6月1日から1カ月間、被災地の保健衛生業務を支援するため、保健師1人が岩手県大槌町で勤務しました。

大阪府からの依頼により、府内の市町村による第2次派遣として、市職員2名が平成23年3月29日から4月2日まで岩手県大槌町で災害支援活動をおこないました。

岩手県大槌町の依頼により、市職員1名を平成25年1月1日から3月31日、平成25年4月1日から26年3月31日、平成26年4月1日から27年3月31日の期間、大槌町役場に派遣しました。

～ 復興の様子①～



大槌町市街地被災状況
(城山公園から)
撮影日:平成23年3月30日
撮影者:富田林市消防本部



大槌町市街地被災状況
(城山公園から)
撮影日:令和4年9月21日
撮影者:大槌町

～ 復興の様子②～



大槌町 蓬莱島
(ひょっこりひょうたん島)
撮影日:平成25年6月14日
撮影者:大槌町



震災を忘れないための木碑
(石碑などにせず取替を継続する)
撮影日:平成27年2月25日
撮影者:大槌町

～ 復興の様子③ ～



吉里吉里祭り
(吉里吉里虎舞を奉納する様子)
撮影日:平成23年8月17日
撮影者:吉里吉里天照御祖神社



大槌まつり
撮影日:平成26年9月20日
撮影者:大槌町

～ 復興の様子④～



大槌町文化交流施設「おしゃっち」
平成30年3月 竣工



源水町営住宅
平成25年12月 竣工

～ 復興の様子⑤～



御社地町営住宅
平成30年1月 竣工



大ヶ口1丁目町営住宅
平成25年9月 竣工

～ 復興の様子⑥～



大ヶ口2丁目町営住宅
平成26年9月 竣工



末広町町営住宅
平成28年3月 竣工

～ 復興の様子⑦～



寺野・白澤第1町営住宅
平成27年9月 竣工



県道大槌小釜線
平成28年7月 開通

～ 復興の様子⑧ ～



源水大橋
平成28年3月 開通



新大槌トンネル
平成30年5月 貫通

～ 復興の様子⑨～



大槌学園
平成28年9月 竣工



赤浜分館・避難ホール
令和2年1月 竣工

～ 復興の様子⑩～



サッカー場
令和3年3月 竣工



野球場
令和3年3月 竣工

～ 復興の様子⑪～

大槌町鎮魂の森「あえーる」(令和7年8月5日オープン)

大槌町内での東日本大震災の犠牲者(1286名)に対する「追悼・鎮魂」の場であるとともに、町民が日常的に集える「憩い・交流の場」として整備されました。

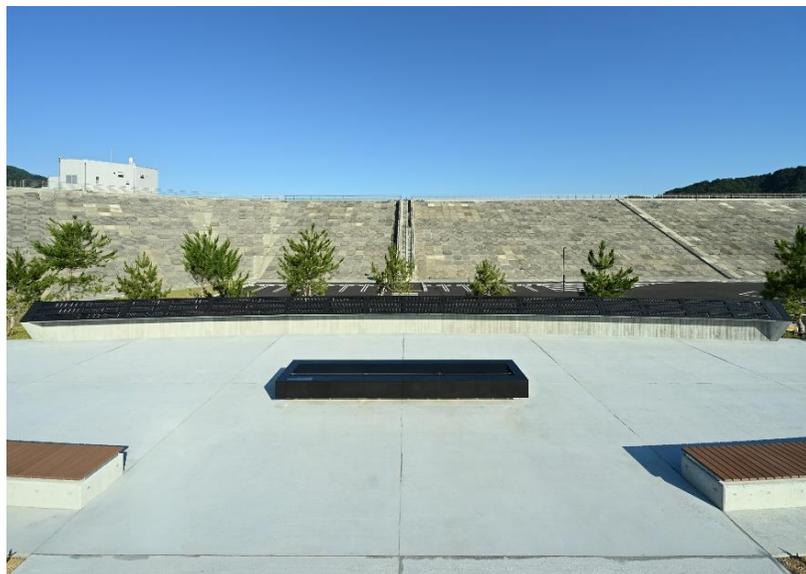
「あえーる」には、「震災の犠牲になられた方々にいつでも「会える」場所であり、また町の未来に「エール」を送る場所として、多くの人が集う場所になってほしい」との思いが込められています。



～ 復興の様子⑫～



大槌町鎮魂の森「あえーる」 (令和7年8月5日オープン)



「あえーる」には、犠牲になられた方々のご芳名が刻まれた「芳名碑」が設置されています。

周りには、アカマツ、クロマツ、ツツジなどの郷土樹種が植えられており、ふるさとの景色の中で、犠牲になられた方々を追悼する場となっています。

整備には、全国から多くの寄附が寄せられ、本市からは、「喜翔会」「富田林ライオンズクラブ」「富田林ロータリークラブ」「富田林和太鼓まつり実行委員会」「富田林東公民館クラブ連絡会」の5団体が寄附されました。

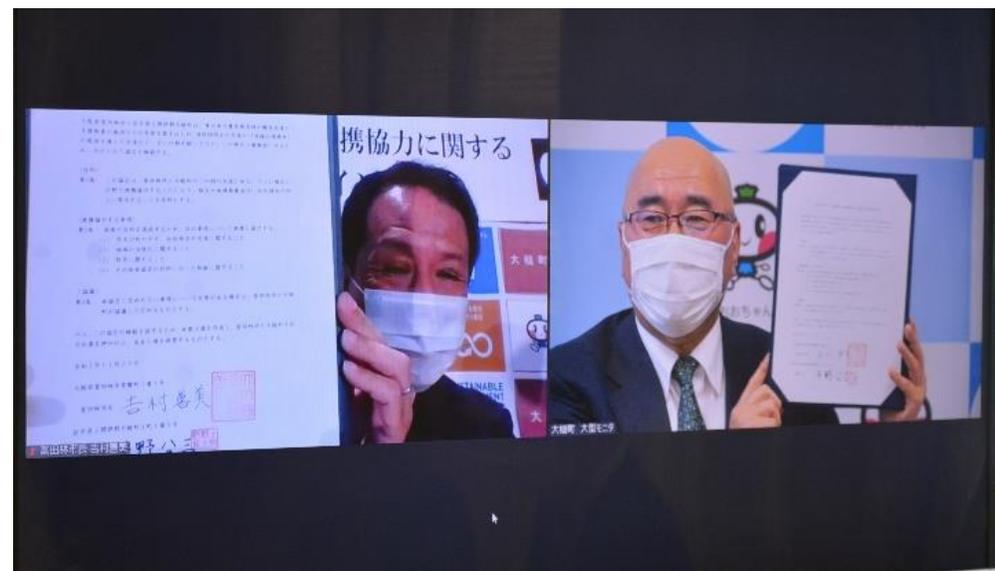
～ 復興の様子⑬～

令和7年8月5日(火)、
吉村市長が、大槌町鎮魂の森「あえーる」完成記念式典に出席し、芳名碑に献花しました。





～大槌町との連携協定～



令和2年11月29日「富田林市・大槌町の連携協力に関する基本協定」を締結しました。

岩手県大槌町と富田林市が、互いの地域発展及び住民福祉の向上を図るため、幅広い分野で連携協力を行っています。（令和2年11月29日オンラインにて締結）



～大槌町との連携協定～



協定締結後、初めての連携事業として、「子どもプログラム～つなごう未来に～富田林市と大槌町の絆」を開催しました。

プログラムでは、大槌町へ「復興応援メッセージ」を届けるメッセージャーとして派遣し、現地での交流・学習などを予定していた市内小学生を代表した4名の児童から、「大槌町への復興に向けた応援メッセージ」の朗読や、富田林少年少女合唱団の合唱が披露されました。

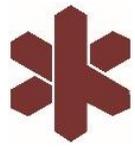


～「奇跡の復興米」の取り組み①～



平成23年10月、大槌町の菊池妙さんが、津波により流され瓦礫（がれき）となった自宅の玄関先から、3株の稲穂を見つけたのがきっかけとなり、塩害を乗り越え育った「奇跡の復興米」を翌年から栽培に取り組みました。





～「奇跡の復興米」の取り組み②～

NEW



JA大阪南・JA大阪南青壮年部・富田林市・喜翔会などの関係者で結成している、富田林市「岩手県大槌町奇跡の復興米栽培委員会」で、平成26年に喜志地区の水田3アールから栽培が始まり、今年で12年目を迎え55.5アール栽培しています。



「震災を風化させず、次世代にも伝えたい」という思いのもと復興米の栽培に取り組んでいます。



～「奇跡の復興米」の取り組み③～



令和5年11月には、3年ぶりに開催されました農業祭・防災フェアに、平野町長がお越しいただき、「奇跡の復興米」を育て届け続けて来たことに対し、富田林市「岩手県大槌町奇跡の復興米」栽培委員会に感謝状を贈呈いただきました。



～「奇跡の復興米」の取り組み④～



●令和7年度の取り組み

・地域団体等による「復興米栽培」

こども食堂「ほっとスペース富田林」・喜志っ子クラブ、
喜志小学校、東条小学校、富田林市・JA大阪南の新入職員

・JA大阪南による「復興米のバケツ稲栽培」

市内小学校16校の5年生

・学校内教育田での「奇跡の復興米」栽培

市内小学校の学校内にミニ水田を設置して栽培

(富田林小学校・寺池台小学校・高辺台小学校・久野喜台小学校・新堂小学校)



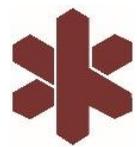


～「奇跡の復興米」の取り組み⑤～



●田植え・稲刈りの様子（令和7年度）





～「奇跡の復興米」の取り組み⑥～



●稲わらは、天王寺動物園へ飼育用として進呈しました。(令和7年11月28日)





～「奇跡の復興米」の取り組み⑦～



●収穫されたお米は、岩手県大槌町（学校給食センター）へ里帰りし、各小学校・幼稚園・保育園等に提供されました。



復興米
ありがとう号
2026.01



袋の中身はどんなお米だろう？

これは空米っていう状態だよ！
白じゃなし、黄色も緑もある～！
初めて見た！！



え？見たことなかった！
日が経ったこぼれみたいな色！



奇跡の復興米が
届きました！
富田林市のみなさん
ありがとうございます



みんなで精米にも
行きました！
この機械の中
どうなってるの？！



黄色っぽかったお米が
真っ白になって出てきて
びっくり！！



復興米のなたちや
田植え・稲刈りの様子をみんなで
学びました。



復興米でおいしくつくりに
好きな目で握りました♪
復興米、おいし～い♡



令和8年1月、「つつみ terrace」の皆さんから、美味しく食していただいた際の様子と感謝のお手紙が届きました。
またこれまでも、大槌町の皆さんから、たくさんのあたたかいメッセージをいただいています。





～ 防災に関する取り組み①～



- 「2025富田林市農業祭」「令和7年度富田林市防災フェア」に
大槌町の平野公三町長が駆けつけてくださいました。

防災フェアのご挨拶では、「自分の命を何より大切にしてほしい。いくら崇高な使命があっても、命をなくしては実行できない。まずは、自分と家族の命を守れるよう、普段からの備えを大切にしてほしい」と、東日本大震災の教訓を踏まえたお話しをいただきました。





震災の記憶や教訓を決して忘れることなく、
防災意識を持ち続けるとともに、
災害への備えを再確認しましょう。